【資料２】

第１回利尻山登山利用検討会　現地検討会アンケート調査結果

１．今日の登山で感じた問題点について、教えてください。

	あなたが特に問題だと感じた点は？	その問題を改善するにはどのような方法がとれると思いますか？
登山者の安全／情報提供・装備チェックなど	・安全に楽しく登山できるための基礎知識が不足。	・まず今できることは、利用者や関係機関への情報提供と周知。
	・一人で歩けない子ども連れ登山や、軽装での登山者が見られた。そんな人たちが登山をするには、危険な個所が多くあり、登山者にも山にも悪影響となってしまいかねない。しかし、山の情報を知らない人が多いと思われた。現地検討会の参加者ですらも、携帯トイレのことを知らない人がいた。	・山自体やその自然環境は、島民の生活の根本であり、重要な経済資源でもあるので、それを守り、維持していくことが最優先事項。 ・そのためには島民と島外の来島者両方への情報提供を、意図を明確にした上で、もっと強くしていかなければならない。
	・登山口に「寒さに関する注意」があったにも関わらず、軽装のままピークを目指す登山者がいた。事故予備軍といえる。	・登山口、ガイドパンフレット等による、しつこいほどの注意喚起
	・「誰かが助けてくれるだろう」という意識の安易な登山者、ガラ場の歩行がまともにできない登山者、悪天候に対する警戒心の乏しい登山者、山中で会ったほとんどの人に問題が見られたのに驚いた。大勢のまともな人の中に若干いました、というのなら判るが。	・啓発を繰り返し行う、というのが現状取り得る手段か。正月の中部山岳のように、登山口で入山者の装備・食料のチェックを行う体制が作れれば改善されるのかもしれないが、常に人を据え付けるのは困難か。
	・登山をするような装備ではない人が、悪天候に登山することを未然に防げないこと。	・登山者の装備、経験をチェックする体制と、利尻山登山の正しい認識をさせる機会
	・登山者ごとに登山の判断基準があり、それらは尊重すべき点でもあるが、時にはその判断が登山者自身や周りの人を危険な状態にしたり、山の環境を悪化させる一因となる可能性があること。	・利尻登山に際し、ある程度の判断基準・材料を事前に示すことで正確な山の状況を把握するとともに、登山に際して協力してもらいたいことなどを意識した上で登山をしてもらう。
	・沓形コースは、特に三眺山からは登山者の安全が心配。	・危険を予知するための情報提供と本人の経験や知識が必要。（危険回避能力のある人ばかりが入山するとは限らない）
	・整備や標識、注意などのバランス。 ・登山者への情報提供をより多くすべき。	・ルートやレベルに応じた基準の作成。情報提供、教育拠点の必要性。
		・親不知子不知には現地に注意を呼びかける看板が必要。

	あなたが特に問題だと感じた点は？	その問題を改善するにはどのような方法がとれると思いますか？
登山道／整備・利用コントロール・調査	・補修や整備については、最終的な結果は別として、今後も継続して行った方が良い。	・同左
	・登山道の侵食がこれ以上進まないような対策が必要（困難？）。	・フトン篭や近自然工法石組み等で補修していくしかないと思うが、継続が問題となる。人的な被害（負荷）と、自然による侵食と両面で対策を練る必要がある。
	・登山道側壁の侵食進行に伴い、植生被覆のオーバーハング・脱落が進んでいる。	・脱落した植生マットの移植が可能かもしれない。在来植生の移植方法の検討も必要。
	・登山道整備をしていることを（日々崩壊していることを含め）登山者に周知し、意識してもらうことが必要。	・登山道整備をしている旨の看板を野営場等に設置し、登山者に意識して利用してもらう。
	・つい最近施工された試験施工箇所（フトン篭、ジオウェッブ）が、土砂に埋まっていたのは驚いた。これでは、整備・維持に多大な費用・労力がかかり、きりがないと感じた。	・一定量以上の雨が降った場合に、入山制限（勧告？）をかけるなど何らかの規制も必要なのではないかと思います。
	・登山者による人為的な登山道の崩壊はこのままでは日々進んでいく一方になる。	・時間等による利用制限（強制ではない利尻ルール）もやむを得ない。
	・山頂の亀裂の今後が気になる	・亀裂の定期観察
	・合流点、9 合目以上のみならず、他の区間でも深い溝状えぐれ、スコリア等の浮き石の増加が感じられる。	・まずは、どの程度の変化スピードなのかを把握する必要あり。
	・登山道沿いや山頂部に利尻らしい生物相と思われるものが何とか残っているものの、山体崩壊や登山道の浸食に伴って失われる危険が極めて高いこと。	・失われる前に記録や調査を十分実施し、できるならば移植や保護の方策を探ると同時に、私たちが失ってはならないものがなにかをはっきりさせる。
管理体制	・日常的に山の状況を把握し、適切な維持補修および普及活動などの管理や見回りをする人（または組織）、さらには利尻山のあるべき姿を様々な視点から検討する場が、地元に安定的に確保されていないこと。	・一時的なものではなく、長い目で利尻山の環境保全を考え、適切な対処を実行できる人材・組織の育成・設置。

２．以下の場所についてのあなたのお考えを聞かせてください。

（１）山頂の亀裂や合流点下の路肩崩壊により、現在の登山道がなくなったら、どのようにすべきと考えますか？

「可能であれば、迂回ルートを新設」という意見（５名）

・安全上問題なく迂回ルートがつくれるのであれば、それもいいと思う。不可能であれば、安全なところでストップするべき。

・位置を変えて、新しいルートを作ることになると思う。よほどの危険が見込まれない限り、「頂上」には皆こだわるのではないか。

・歩行できないなら閉鎖すべきだが、歩行できるなら植生や安全性を確認して登山道をつけかえる。

・まずは、別ルートがつくれないか検討する。（１日あたりの利用制限人数を指定したコース設定）他にコースができない場合に、行ける所までを指定し規制した登山にする。

・十分な検討をした上で、ルートを変更する。

「崩壊地点までの利用とする。」という意見（５名）

・山頂の亀裂部分で崩壊した場合は、山頂を移動させる。合流点下で崩壊した場合は、その地点までの登山として利用者に周知し、それでも登山する方だけ利用してもらう。

・鬼脇ルートと同様に、適切な場所を選び、その地点を引き返しポイントとして設定する。

・上部閉鎖と安全な場所までの登山道開設。登山口から全く登れないようにするのは反対。

・新たな登山道を整備するのは不可能と思われるので、立ち入りを規制する方向しかないのでは。

・山頂までの登山道を新設することの現地高山植生に与える影響は大きいと考える。新設は避け、残りの登山道の利用に限るべき。

（2）トトロのトンネルについて、登山者から「ここはもっと刈り込んだ方がよいのでは。」と言われた場合、あなたは何と答えますか？

・登山道は自然を楽しむためにあるものだと思う。整備（草刈り等）されすぎていては、自然を楽しむことができないのではないか。

・登山する際に、著しく危険な場所と判断した場所については一部刈っていることもあるが、基本的には木があること、登りにくい箇所があることなど全て含んでいるのが利尻山。これからも自然に近い状態で登っていただくための登山道です。

・この付近のダケカンバ林には翅が退化した昆虫の一種が生息しています。まだ♂が発見されておらず、未記載種である可能性もあり、その生態はほとんどわかっていません。おそらく人間がこの島に住みつくよりもはるか遠い昔からこの場所に住みつき、翅がないため移動もできずにかろうじてこの場所だけに生き残っているのだろうと思われます。そのため、できるだけその場の環境を残しておきたいと地元では考えており、彼らが昔から住んでいた場所にお邪魔させていただくという気持ちをみなさんにも持っていただきたいと思い、不必要な環境改変はできるだけ抑えていますのでご理解いただければ幸いです。

・木を手掛かりにしている人もいるし、トンネル状になったこの景観を好んでいる方もいます。著しく危険な状態ではないので、このまま景観を残し、自然のままにしておきたい。〞

・頂上付近のヤセ尾根で転落する危険と、ここで頭をぶつける危険、どちらが深刻でしょうね。そういった大小の危険を自力でクリアすることも登山の意義じゃあないですか！！　というようなことを答える。

・登山道への踏圧ダメージを弱める一手法として、「ゆっくりと、一歩一歩、歩みを進める」ことがあると思う。ゆっくり歩けば、枝、幹へも頭をぶつけない。一石二鳥。

・とても怒って、とにかく自分の気持ちを言いたい方には、何も言わず、その人の言い分をただ聞く。そういう方には、今後利尻に登っていただかなくても良いと思うので。そうでない方に会えたとしたら、できるだけ私たちと一緒に利尻の自然をそのままの姿で好きになってもらいたい旨、話してみたいとは思いますが・・・。正面切って、自分たちの意見ばかり言うのは良くないと思います。

・細かい枝払い等は、ある程度あってもいい（安全上）。しかし、テープ等で判るようにして、ちょっとしゃがむ程度でよけられる太い木は切る必要はない。

・不用意に刈る必要はないが、張り出した枝のために足下の歩道が拡幅している所もあり、その場合は刈ったほうがよい。

・そうします。

３．その他、今日の感想などを率直にお聞かせください。

■現地検討会の良かった点

・共通認識を持つという意味では、非常に良い機会だった。

・登山者としての立場も体験しながら、利尻山を守ろうと努力されてきた方々からの真摯な意見を現場で聞くことができたことは、室内のプレゼンでは補いきれない貴重な体験となった。

・天候が良くない時に相互に確認できたのでよかった。

・悪天候の登山もまたひとつの検討材料となり得たと願いたい。

■現地検討会の悪かった点（事務局反省事項）

・あいにくの天候で、現場で意見交換がなかなかできなかったことは残念だった。

・検討員が解説者の話を聞きっ放しだったのはよくなかった。現場で意見交換できる工夫も必要。

・外部に伝えている「ツアーのあり方」に反する大人数過ぎの登山をしてしまったことが残念。

■登山の問題点や対策について

・悪天候の中の登山はやはりするべきではない。

・登山も自然状況やマナーを守らなければ、危険が隣り合わせだということを認識させられた。

・あんなに風が強い時には、私はとても登れない。そのような情報を素人や日和見な登山者に知らせる方法が必要と思った。

・登山者が安易に登山しないよう、装備等についてこれまで以上に周知しなければならないと感じた。

・登山者（観光客）に対し、登山に関する注意事項について、観光案内所等で情報発信する必要があると思った。（持って帰れるチラシを置いたりするなど）

・利尻山の登山基準のようなものが必要と思った。事故の未然防止という意味でも。

・経年的に調査をして、山の姿を数値化していく事は非常に大事だし続けていく必要有り。

■その他

・昨年７月にも登山したが、その時に比べて、登山道侵食はより進行しているように感じた。

・つい、「整備」にばかり頭が向いてしまう。もっと広義に「利用」を考えるように努めたい。

・関係機関や関係者に敬意を表します。